

巻頭言

私たちの立場で山小屋を考える

上田

登山時報 8月号に、労山が4月に実施した「山小屋の経営意向」アンケートの結果と、それをふまえた、(株)白馬館社長で北アルプス北部山小屋組合長でもある松沢貞一氏との対談記事、「山小屋はいま／転換期を迎えた山小屋経営」が掲載されていて読まれた方も多いと思う。

アンケートの結果で、衝撃を受けたのは、経営を継ぐ人がいない山小屋が全体の2割、収容人数が50人未満の山小屋では7割、そして経営規模の小さな山小屋が廃業し、周囲の登山道が廃道化し、登山者にとっても深刻な問題なると述べているところだ。

(株)白馬館と云えば日本最大の山小屋、白馬山荘など7つの山小屋を経営する最大の山小屋経営者だが対談を読んでも収容人数の少ない山小屋と同じ困難を抱え、さまざまな努力をしていることがわかる。

私は今夏、飯豊連峰・北アルプス白馬岳・南アルプス農鳥岳～塩見岳をそれぞれ山小屋を利用して歩いたのだが、それぞれの山小屋には大きな違いがあった。

私などは小屋泊りでなんとか山へ行けている、同じ山域・同じコースでも避難小屋泊の場合はグレードが上がるし、テント泊だともう一段上がる、もしメインルート以外の小さな小屋がなくなると行ける山域はかなり狭くなってしまう。

松沢氏は山小屋の仕事や役割には公の部分が多いと云っている、それは登山道の保守、登山者の安全確保、自然環境の維持などのために費用を負担し人的貢献もしているだけではなく、大学医学部の診療所への宿泊の提供、高山植物保護パトロール員の拠点を提供し活動費の支援など多岐にわたっている。これまでの山行で診療所を利用したこともあるし、救助要請で山小屋の世話になったこともある。今年、北アルプスの山小屋の宿泊費が1万円を超え、ため息が出たが、登山者もその費用の一部を負担せざるを得ないとも思う。

「登山道については誰が責任をもって管理するのか社会的に決まっていない」その結果は、登山者に来てもらうために、山小屋が登山道の保守・修復に手を出さざるを得なくなる。

もう一点気になったのは「社会・経済の様変わり、例えば個室があって食事が美味しくないと宿泊したくないというような、これまでより高い要求が登山客から求められる」と、要は「きれいで、設備が整って食事が美味しくないとダメ」ということだが、そんな人は山小屋に泊まる資格がないと思う。たしかに、布団1枚に二人という時などはつらいし、洋式トイレはありがたいと思うが、二日や三日美味しいものを食わなくてもどうなるものでもない。

私は、もう少し若ければ「山小屋でバイトするのもいいな」と思ったことがあるが、営業シーズンはずっと山小屋で暮らす「山小屋の経営者や従業員はオールラウンダーの特殊技能者」と云う点ではとても勤まりそうにない。

最後に、山小屋で働くことの魅力の第1位は「登山客の喜ぶ姿が見られる」こと、これからは大いに感謝し、お礼を言いたいと思う。

「山小屋の不便を楽しんでもらいたい」「自己責任という意識を持ちながら登山を楽しんでほしい」という山小屋からの声をしっかり受け止めて、マナーを守り高齢期の生きがいとして、ゆっくり、安全に山を楽しみたいと思う。

巻頭言

高齢化と山歩きについて

渡邊

最近、高齢者の増加と共に高齢者による異常な交通事故や年々増加する認知症などのニュースが増えており、年齢的に該当者である私は聞きたくない話題であるが、これが現実でもある。

高齢化は山岳の分野でも同様で、最近では山岳事故や遭難が増加の傾向にある。情報によれば70歳以上の事故比率が高いと報告されています。高齢化は高御位山遊会においても平均年齢が年々高くなっています。ちなみに数字で見ると‘18年10月で65.9歳、‘19年10月で66.7歳です。年齢層は平均年齢以上が61%のため、若い入会者が少ないと平均年齢の上昇が続き、今後も高齢化は避けられない状況です。

高齢者の山岳事故増加は大きな課題となっていて、安全対策が問われています。事故の主な原因は道迷いと転倒、それによる負傷や骨折などです。事故には色々な原因があると思いますが、やはり高齢化による筋力、体力低下とか、いざと言う時の敏捷さも減退しているのは事実だと思います。また、年齢と共に何らかの持病のある方も多いと推察します。そのため若いときに比べて同じ山に登っても事故を起こす可能性は高くなっているのは仕方ない事と言えます。

対策としては筋力や体力のアップは無理としても現状を維持する努力が必要で、日頃の積み重ねが大切であり、何らかのトレーニングを続ける事で体力維持の効果も期待できます。

高齢化による今後の山行のあり方として、①各自が自分の体力を見直し、無理なく歩ける山行先を考える。②山行募集に申し込む前に今の自分に行けるかどうか山行案内など見て慎重に検討する(この項目はこれまでも当然していなければならない事ですが、実際は行き先だけを見て申し込みをしている方も見受けられます)。③規定としてはありませんが、参加確定後、リーダーに知っておいて欲しい持病とか投薬の情報など自主的に申告しておく。④事故防止の最短距離は山行中、各自が歩くことに集中し、歩行中は必要以上の会話はしない。⑤山行先の地形図&コンパスを必携し、分岐などの要所で位置の確認をする。⑥山歩きは、行程の後半、疲労により事故や体調不良になり易いので、山行計画は時間に余裕を持たせて計画する。

一方、リーダーは山行案内に山の難易度情報を極力提供して頂きたいし、申し込み者とその山行に無理がないか検討し(事前のトレーニングや他の山行実績の情報 e t c)無理と思われる場合は、山行指導部などにも相談の上、参加辞退を薦めるのも事故防止対策として必要と思う。その様な指導は本人にとっても無理な山行をしなくて済むし、安全対策にもなると考えます。(参加申し込み者は行きたい気持ちが優先し、多少無理かなと思っても申込むケースがある)。

また、会則では会員同士での個人山行は認められてないが、安全対策を優先するため、将来的には会員2~3名での日帰りの個人山行を推奨する制度があってもよいと考えます。勿論、グループ山行が増えるのは良くないため、事前の計画書提出を義務づけることで良いでしょう。

この制度があれば体調や自身の都合に合わせて手軽に安全な山歩きをする事が出来るので、山歩きの機会が増える。また、万一の事故やトラブルにも迅速に対処することが可能です。

私自身は体調不良ながら、体力を維持するため、毎日4~5km歩くようにしています。従来は山歩きは無理ですが、これからも、体調を見ながら無理をしない山歩きを続け、高御位山遊会の生涯会員を目標に頑張りたいと思っています。

巻頭言

回想

平井

瀬戸内田舎育ちの僕は、就職先の関東の地に違和感を持っていた。

教科書で習った関東ローム層 沿線の田には稲が無く一面茶色の畑、畑！近くに山もなく、森、森！遠く筑波山、マザー牧場、高尾山、利根川、運いいと富士山が見えるが、

「思えば遠くに来たもんだ」 関東人になるんだ！心細い

時は昭和 48 年 18 歳 兼業農家の次男が、高校の電気科を出て、一応全国ネットの安定企業？に就職。島国四国から出られた！日本の中心 「おらさ東京へ行くだ」

たどり着いた千葉柏の街、瀬戸内海を連絡船で渡り、東京まで新幹線ひかり、上野から常磐線快速(上野、南千住、北千住、亀有、綾瀬、松戸、柏 超早い時速 130 k m で突っ走る)約 30 分で国鉄柏駅 生家から約 7 時間 遠い。 うどん県の同期 3 人で入寮。

休日は花の東京見物、秋葉原電気街めぐり、神田の古本屋街、時には八丈島、三宅島など旅行、だが昭和 49 年となり人生が変わった。あの「オイルショック」企業は工場要員を減らし、向き不向き関係なく、僕は医療機器工場の製品検査係から販売部門に研修の末、転勤となる。生粋の江戸っ子で年配の上司も、関西転勤を命じられた。(江戸っ子は「はひふへほ」発音できず僕の事 ヒライでなくシライと呼ばれた)

19 歳 生まれながらの呑気とネクラ、7 歳上の兄へのコンプレックスと教育熱心で過剰な期待をかけた母からの抑圧で、今でいう鬱症状。 関西転勤の上司も、大阪に移動となった僕に「シライは販売部門では口下手で無理」と心配してくれ、堺から励ましに来てくれるほどだった。大阪営業所の一員、都会での社用車の運転、お客様への装置の取扱説明、使用方法を医者、技師、看護婦に説明だが、話下手ですぐあがり次ぎの言葉が出ない！

相手は神様、先生、「この子の説明は解らない」と、時には会社にクレーム意気消沈。

修理する装置も直らず、明日への不安に明け暮れ帰社すると、次の故障、働く先は浪花のコンクリートジャングル、周りは山、田んぼ無く心は滅入る一方！最悪のメンタルだった。当時、世は第二次登山ブーム 心のリフレッシュとポケットベルからの逃避で一人登山を計画。GW に上高地、雪で登れず、リベンジ、夏に西穂高の登山を経験した。

翌年の夏 槍ヶ岳での遭難すれすれの体験、あの時の心細さは死を覚悟した。

ガスで 1 m 先もわからないガレ場を、斜度 4 5 度、崖から落とされた子ライオンのごとく格闘 1 時間、うっすらと槍ヶ岳山荘を見つけた時の安堵感は、何ものにも代え難いものだろう！山が僕に幸運と勇気を与えてくれた！

「山、友人、仕事、家族、犬、趣味」人は安泰な人生を望むが、人生は一人一人が大スペクタクルドラマを創る。山あり谷あり「川の流れのように」

【追記】

この巻頭言を書きながら、ずっと毎日頭から消えない思いがあります。

昨秋から失踪してる友人探しです。優しく賢い無二の親友「伊藤君」君には感謝しかない。もし、もし君が読んだら連絡ください。又会える奇跡に期待します。

巻頭言

高齢者講習通知にからんで思うこと

和田

先日、兵庫県公安委員会より“認知機能検査、高齢者講習のお知らせ”というはがきが免許更新の半年前に先だって届いた。教習所は大変混雑しているのですぐ予約をしましよと書いてある。認知機能検査結果次第で次の更新講習の内容が変えられる様である。

実は最近、車の運転でこんな経験をした。ある日、家族が〇〇時に車で迎えに来て欲しいと電話してきた。私は風邪気味で頭痛もし、だるかった。道は良く知っているが、少し早めに出かけた。途中まで来たとき近道を探そうと思った。そして脇道から街中に入って行った。少し行ったら細いT字路に行き当たった。行けるやろうと判断し行こうとしたら曲がり切れないほど狭いのが判った。よく確認せずバックしたらバリバリと音がした。ぎょっとして確認したら右側のドアがこすれてへこんでいる。電柱にこすれていたのである。車の運転には自信があったし、通常の自分であったらこんなことにならないのにと考えた。後で思うに、体調不調の時とはどうか体力が無くなると少し投げやりになり、こんなことになるのかな…しっかりチェックせなあかんという気が頭のすみであっても、まっ良いかと端折ってしまう。またある時、自動車道の側道から少し広い道に出る時左右確認して発車しようとしたら目の前に車がきていた。煙に巻かれたようである。左右確認したとき視野の中にはなかったはずなのに？ 一体どこから現れたのか？車のフレームに殆どが隠れていたのを見落としていたのか？ それ以降、左右確認は以前よりはしっかり見るようにしている。こんな次第で自分も歳相応に体力も認知機能も低下しているのかなと認識しだしたのがこの頃である。

最近TVで高齢者が交通事故を起こしたニュースをよくみる。当然ながら昔に比べ高齢者が増え、車が増え、高齢者の運転機会も増えている。事故の確率は増えて当たり前である。じっくり考えたら起こりえない様に思うが、考えたり確認するのがしんどいのは？はじめはそうだがだんだん考えることそのものが欠落してくるのかなとも思う。また最近物覚えが悪くなってきたように思う。忘れた漢字を辞書でひいて、あ、そうか思い出す。それから数分したら、あれっ！どんな字だったやろうとなる。がっかりする瞬間である。

後期高齢者になると一旦停止の停止線を少しでもオーバーしたら警察から認知機能検査をして来いと言われ、それをしないと免許停止になるそう。カミさんの知り合いが実際に経験したこととか。カミさんはそろそろ免許証を返納したら！と言ってくる。不便でないのなら返納してもよいが、今免許証を返納したら非常に不便な思いをするのは判り切っている。もう少し待てばA Iで全自動運転できるようになりそう。だが私には間に合いそうにない。要は、車の運転は危ない歳頃と認識することかな！ この際少しでも頭が柔軟になるよう山登りをすっか！ 山登りは認知機能を高めると聞いたことがある。こんなことをちらちらと思う最近である。

巻頭言

「一生、山に登るための体づくり」

(何歳からでも始められる筋トレ、ストレッチ)

森本

登山時報2018年11月号に記載されていた本の内容を紹介したいと思います。

著者は、ご存知の保健学博士、フロリダ大学スポーツ科学研究所客員教授で「山筋ゴーゴー体操」を提案し普及活動をされている石田良恵氏である。

- ①まえがき：山岳事故は、「足をひねっての捻挫」「段差に引っ掛かったの転倒」「手をついて骨折」などが多発。60歳を過ぎると筋肉量が急速に減少し、バランス能力の低下にも繋がる。全身には400種類以上の筋肉があり、登山で重要なのは上りの**ふくらはぎ**（下腿三頭筋）：上りで足がつり易い。下りの**太もも**（大腿四頭筋）：下りで膝がガクガクする、最大の筋肉で一番減少しやすい。爪先を持ち上げる**すね**（前脛骨筋）：疲れるとつまずき易い。筋肉量の増加にはややきつい負荷が必要で、「トレーニングの特異性の原則」：そのスポーツの為のトレーニングは、そのスポーツで行うのがベストである。
- ②ストレッチ：登山前は、靭帯や筋の柔軟性を高め、関節の可動域を広め、血流促進し捻挫等の事故防止を図る。登山中や登山後は疲れた筋肉の疲労回復、筋肉痛の防止。
- ③筋トレ：15分程度の筋トレを毎日続ける。正しい方法を身に付け、回数を増やし、ペットボトル等で負荷を増やす。バランス力の強化も含め、ふくらはぎ・太もも・腹筋・背筋を鍛える。
- ④事故・ケガ予防と持久力アップのトレーニング：バランス能力の低下は、加齢と共に進む。筋力の低下や反応の遅れ等が原因であり、転倒・滑落に繋がる。・転倒予防・腰痛予防にもなる。
- ⑤持久力を上げるトレーニング：登山で必要なのは「筋力」と「持久力」である。持久力とは酸素を筋肉に送り届ける能力：**心肺能力**である。上りで息切れしにくくなる。
・踏み台昇降運動：高さ20cm⇒30cm⇒40cm。心拍数：140～150が目標。

②ストレッチ



③筋トレ



④転倒・腰痛予防



⑤持久力アップ



私は、30年前から3回ぎっくり腰になり、毎朝起床時には腰痛に悩まされている。そのため起床後30分間ストレッチで筋肉をほぐし、腰痛改善のため腹筋・背筋・脊柱起立筋等の筋トレを日課としている。また体力のバロメーターとして毎年六甲全山縦走大会に参加するため、敷居で爪先・かかと立ちを行い太もも・ふくらはぎの筋トレをやっている。片道1.5時間程度なら極力自転車で行き、踏み込む力を維持するようにしている。今年は鍋蓋山の下りから摩耶山の上りにかけて両方の足の裏や太ももがつり、リタイアしたので、来年のリベンジを目指して更に筋トレに励みたい。

巻頭言

日本タンポポの未来

藤原(千)

タンポポの花は春に咲くのが一般的ですが、最近では季節外れに花を見かけるのも珍しくなくなってきました。それはなぜ?…調べてみました。

タンポポには昔から日本にある日本タンポポと、明治初期に外国から北海道に導入されたものが(野菜としてか牛の餌としてかの説がある)、昭和30~40年代の高度成長期に日本全国に広まったと言われる西洋タンポポがあります。両者の見分け方は花びらの付け根にある総苞片で、反り返らないのが日本タンポポ、反り返るのが西洋タンポポです。特徴を比較すると以下のようになります。

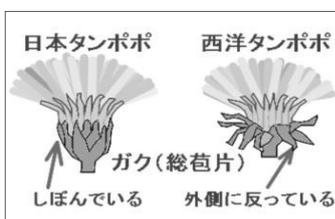
	日本タンポポ	西洋タンポポ
開花時期	3~4月 小さい花	1年中 大きい花
種子	数は少ないが大きい 大きな芽が育つ	数は多く小さい 軽いため遠くまで飛ぶ
繁殖方法	他家受粉(ハチなどの昆虫により花粉が運ばれて受粉)	他家受粉とアポミクシス(クローン遺伝子によって、受粉する相手がいなくても1株で増える)
生育形態環境	夏になると周囲の植物が生い茂り日当たりが悪くなるため、根だけ残して枯れる。 自然豊かな土地	夏には周囲の植物に負ける。 他の植物が生えないような空き地などでは、1年中生育する

表より、西洋タンポポは年中咲いて種を飛ばし続け増殖できることがわかります。それから注目すべきことは、西洋タンポポがクローン遺伝子によって増える能力です。なるほど、空き地で独りぼっちでも仲間を増やせるわけです。

自宅周辺の畦に咲いているタンポポを見ると、総苞片が反り返った西洋タンポポばかりです。約30年前に行われた耕地整理の影響により、日本タンポポが消滅したのではないかと思います。約3年前に新築した娘宅の庭には今春、4株のタンポポが点在していました。それらもやはり西洋タンポポです。一方、成井の高御位山登山口近くの畦では、日本タンポポが群生しています。そこは昔から変わらず自然が豊かなあかしです。

近年確認されるタンポポの約8割は、西洋タンポポもしくは日本タンポポとの交雑種と言われています。西洋タンポポが花粉を日本タンポポに受粉すると、2分の1が西洋タンポポの遺伝子になります。その雑種にさらに西洋タンポポが花粉を受粉すれば4分の3。このように日本タンポポを侵していきます。そのうえクローン種子で純血の個体はしっかり残します。恐るべし!西洋タンポポは環境省の生態系被害防止外来種リストに掲載されています。

わずか2割の日本タンポポ、なんとか生き残って欲しいものです。
がんばれー



参考文献:面白くて眠れなくなる植物学 稲垣栄洋

巻頭言

ブータンの聖峰 チョモラリ トレッキング

大谷

7、8年程前に神戸で田部井淳子さんの講演会があり、その時にブータンに行かれた話を聞いて行ってみたいと思った。

ブータンはヒマラヤのシャングリラ（桃源郷）として知られる仏教王国。20世紀後半まで鎖国に近い政策だったこともあり、地球上のほとんどの場所で失われてしまった手つかずの美しい自然と、自給自足に基盤を置いた伝統的な生活文化が残っている。

ブータンの聖峰チョモラリトレッキングコースのツアーで行く事に。

タイのバンコクからブータンのパロ空港（標高 約2,300m）へ。唯一の空港の所在地でありブータンを代表する寺院があるパロは、ブータン最大の観光地である。

町の北西12kmの地点にあるドウゲゾン（2,550m）へは車で移動。途中切り立った岩壁に建つタクツァン僧院があり、車窓からの眺めで通り過ぎた。

ドウゲゾンで自動車道路は行き止まりで、チョモラリのトレッキングの起点になっている。ここから私達の余分な荷物は馬に運んでもらう。ドウゲゾンのすぐ裏から、パロチュに沿って典型的なブータンの農村風景のゆるい山道をシャナへ・・・。

吊り橋を渡り、石伝いや丸太橋でいくつもの溪流を越えて大森林の中に分け入って行く。キャンプ地のシャナは昔はチベットからの交易路の関所があった所。パロ川に沿ってチョモラリを望むソイタイタンカ（3,520m）へ、針葉樹の森の中をひたすら登る。傾斜はきつくななく日陰なので案外暑くなかったが、行動時間が長く疲れた。

ソイタイタンカから樹林帯を抜け、森林限界を越えて、視界が広がる草原の中19km進む。途中ソエなど遊牧民の村を過ぎてチョモラリ直下のB、C（ベースキャンプ）であるジャンダゴン（4,040m）に到着。

BCはチョモラリから続く氷河谷がパロチュに出会う場所にあり、「女神」チョモラリと鋭峰ジチュダケが眺められる所である。

ベースキャンプ周辺の背後の丘にのぼり、湖まで（4,350m）ハイキングをする。

湖からは、チョモラリとジチュダケが大きく迫り、雄大さに感嘆！！

高所（4,040m）に長く滞在すると高山病になりやすいので早くおりる事に・・・。
帰路は同じコースを、ソイタイタンカ～シャナ～ドウゲゾンで、トレッキング終了。峠越えがないので案外早くおりれた。後はティンプーで観光、ショッピング等をして、ブータンの伝統的な風呂「ドツオ」を体験する。

「ドツオ」とは焚火で真っ赤に焼いた石を木製の浴槽に沈め、お湯にしたものの中に入る。焼石も本来はミネラルを考慮して選び薬効があると信じられている。

もう一度行く事があれば、タクツァン僧院を訪れてみたい！

巻頭言

「色々なボランティア活動」

安田

最近、ちょっと気になっている事がある。ボランティア活動である。知り合いの方々に話を聞くと殆んどの方が何らかのボランティア活動をされていることが分かった。

もちろん、我が高御位山遊会の高森ボランティアが行っている登山道整備も然りだが、ほとんどは障害者、高齢者、児童の福祉ボランティアをされているのが分かった。でも「ボランティア活動」と聞くと、私は、やはり一番に思い浮かぶのは災害復旧ボランティアである。

昨年の2018年は全国的に本当に自然災害に悩まされた年であった。ボランティア活動が、注目されるようになったのは、神戸淡路大震災で言われるようになり、現在では、沢山の方が被災地でのボランティア活動をされるようになった。全く頭の下がる思いである。

中でも、山口県で小さな子供が行方不明になっており、気になって自分も探しに来て、見つけたというボランティアさん。これには全国の人が感動した。大勢の警察や消防が3日間探しても、なかなか見付けることが出来なかったのに、到着してから僅か30分で見つけている。

この方、スーパーボランティア(と、呼ばれている)の取材放送がテレビであったので、観たが、本当にすごい人である。ボランティア活動するうえでの心構えが半端でない。「ボランティアをするのは人の為ではなく自分の為」とよく聞くが、本当にすごかった。広島の被災地での活動中、お好み焼きを持って来てくれた人がいた。それをいただいた時、本人は感謝の涙を流しながら、丁寧に御礼を述べていた。本来は一切、受け取らないはずなのに、わざわざ自分の為に持って来て下さったという事への感謝である。

ボランティアと言っても色々なボランティア活動がある。自分の知人である方が、若い頃(30代)から小学生に週末、サッカーを教えている。これは楽しいらしい。自分の指導してきた子供たちが試合で勝ち進み、大会で優勝したことも何度かあるという。そのクラブからは年に一度、保護者会から指導者全員にスポーツウェアが支給されるのだが、いつも拒否している。自分はボランティアで好きで指導させて貰っているのだから必要無し、というのが本人の強い意志である。指導者全員での慰労会の招待にも一切参加しない。好きなサッカーするのに必要無しである。この方も一本筋が通っている。68歳になる今も小学生と走っている。「低学年には負けん！走れなくなった時は辞める時」と心に決めているらしい。素晴らしい！

2020年東京オリンピックのボランティアの募集要項には驚いた。かなり高額な費用を自身で準備し、参加させて貰うことになるらしい。学生は親がお金を準備して行かせるのだろうか？これ本当にボランティア？って思ってしまう。確かに世界のアスリートを目の前で見られる機会が多いかも知れないが…。募集結果は昨年の12月で締め切られていたのだが、多くの方が応募してきて溢れたらしい。何とも凄いなと思った。考えてみれば被災地でのボランティア活動も全て実費であるし、金額にしたら、このオリンピックお手伝い費用と案外変わらないかも知れない。

ボランティア活動「人の為ではなく、自分の為」も、体力とお金がないと出来ないという事なのか。この間、ある本を読んだ中で、今、高齢者のボランティア活動が増えていて、逆に周囲に迷惑をかけているケースもあるとか。自分が役に立つのか、立たないのか、判断ができる「冷静な目をもて」と指摘している。

近所の人々が時々、自宅近くのお地藏さん周辺を掃除している。この様な、さりげなく身近なボランティア活動を、いずれ自分も関わりたいなと思っている。

巻頭言

雑感

木下

明石市長の“暴言”がニュースで取り上げられ話題になっている。

「すみんですむか。立ち退きさせてこい、お前らで。きょう火つけてこい。燃やしてしまえ。…」文章で見たり、音声で聞くと犯罪強要で、パワハラだと言われてもしかたがないと思う。

はじめに公表されたのはこのショッキングな部分だけだったが、後にやりとりの全部が神戸新聞で公表された。少し長いが引用すると「・・・しんどい仕事やから尊い、相手がややこしいから美しいんですよ、後回しにしてどないすんねん、一番しんどい仕事からせえよ。市民の安全のためやないか。言いたいのはそれや。そのためにしんどい仕事をするんや、役所は」

自分も市の職員をしていて、このケースと似たような立場を経験したことがあるだけに他人ごととは思えないような気がする。事業用地の買収の際にはいろんな地権者を相手にしないとイケない。公共事業による買収には税の優遇措置や建物補償等もあり大半の人は協力的だが、一部になかなか判子をついてくれない人がいる。判子をつかない理由はいろいろあるが、そういう人を相手にする『しんどい仕事』は後回しにして交渉しやすい人との話を先にして、その結果、事業の遅れなどの不都合が生じる場合がある。

明石市長と職員とのやりとりのうち、後半部分は、やらなければいけない仕事は先送りせずにはしっかりやれ、という意味では至極まっとうなことを言っているように思う。本来やるべきことをやらずに先送りしてきたことの積み重ねが不合理な状態を残してしまう結果になる場合がある。前段の発言は論外だが、今やるべきことをしっかりとやりなさいという意味であれば明石市長の発言は理解できる。

2015年の第17回『はじめての山歩き教室』に参加してから4年が経過した。それまでは高御位山へは成井側からしか登ったことがなかったが、この会に入ってからいろんなルートを歩くことができた。なかでもJR御着駅から深志野登山口を通して桶居山、高御位山、北山を通りJR宝殿駅へ至る高御位山縦走はこの山の魅力を十分に感じさせてくれる。また、六甲山をはじめ近隣の山への日帰り登山や宿泊を伴う登山などへも参加し楽しませてもらっている。澤田律子さんが「高御位」第208号の巻頭言で書いておられた「人とのつながり」も山行の楽しみでもある。

私自身、別な活動に軸足を置いているためこの会では十分に役に立てていないが、できる範囲で会の運営に尽力していきたい。

巻頭言

「うりずん」のころに想う

三木(悦)

もうすぐ故郷は、一年で最も過ごしやすい「うりずん」の季節をむかえる。

「うりずん」とは冬が終わり大地に潤いが増すこと、「潤い初め・うるおいぞめ」が語源といわれ、旧暦の2月から3月頃を指す。

沖縄は一年を通して温暖であるが、冬型気圧配置の時は強い季節風が吹き冬を感じる。

季節風がやめば、やがて「うりずん」の季節となり亜熱帯植物の月桃^{げつとう}の花が咲き、ブーゲンビリアやデイゴの花が彩りを増す。皆この季節を心待ちにしている。

今年は少し早い時期の帰省となったが、一足早く名護で桜(緋寒桜)を楽しむことはできた。

この度の帰省では一冊の絵本に心動かされ、以前から気になる所を訪ねてみることにした。

これまで登ることのなかった丘と、基地移設建設が進む名護市辺野古の海である。

沖縄に生まれ育ったが、近くに米軍人滞在の基地は無く騒音にも無縁だった。

だが、6 km程先に見える唯一の山(丘)は、復帰前まで米軍のレーダーサイトだった。

丘の上にあるドーム型の建物は、巨大ゴルフボールのように映り威圧感を覚えた。

1972年の復帰後は自衛隊駐屯基地に変わりその後、周辺はリゾート開発が行われ自衛隊駐屯基地とゴルフ場が隣接して丘の上まで車で行き来できるようになった。

でも、これまで一度も行くこともなく、私の中では封印された場所だった。

現在は航空自衛隊那覇基地の分屯基地として、新型レーダー(航空機・巡航ミサイル・弾道ミサイル探知)が設置されている。私の「心の山」は今も変わらず巨大な建物があり山頂辺りはゲートの中だった。自衛官に三角点を尋ねたらあの辺りと指して教えてくれた。

次に訪れたのは辺野古の海、美しく輝く大浦湾は土砂投入工事が進み監視船が停滞している。

県民の「辺野古移設反対」の言葉の裏には沖縄戦に遡り、語りつくせない思いと平和への深い思いがある。県民投票の3択や、基地問題の葛藤は尽きない。

2013年の「沖縄全戦没者追悼式」式典で朗読された詩、沖縄戦を体験したオジイ、オバアが聞いて涙したという詩を一部抜粋して紹介しよう。(当時6歳安里有生さんの詩)

『ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてきてよかったよ。このへいわが、ずっとつづいてほしい。みんなのえがおが、ずっとつづいてほしい。へいわなかぞく、へいわながっこう、へいわなおきなわ、へいわなせかい、へいわってすてきだね。これからも、へいわがつづくように、ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。』

この詩に、絵本作家・長谷川義史氏の絵が描かれ「へいわってすてきだね」の絵本が発行された。一人の男の子が書いた平和への想いと力強い誓いの詩が絵本となり、沖縄発・平和へのメッセージとして世界へ呼びかけている。

あなたにとって平和とは何でしょうか?と問われ、ごく当たり前の生活ができることが平和であり、当たり前の生活に感謝することが大切だと、絵本に教えられた。

全ての基地問題が沖縄ファーストで終結できるのは何時の日だろう。その日がくるのを願い、絵本のような「へいわなおきなわ・平和な世界」を思い描く。

美しい故郷、花が咲き空も海も光り輝く「うりずん」のころ山行を計画して仲間と歩きたい。

巻頭言

元号をたどる昭和・平成・次の時代へ

待場

30年に余り続いてきた平成も終わりを迎えようとしている。

昭和、平成、そして次の時代へ。そう思うと少し寂しい気持ちになる。

「昭和」という言葉は、「書経」の「百姓昭明、協和萬邦」の一文から採られ、その64年間というのは、歴代元号のなかでも最も長い。「国民の平和と世界各国の共存繁栄を願う」という意味を込めてスタートした「昭和」だったが、その前期には名前と裏腹に暗く苦難に満ちた時代であった。

終戦後の日本は、アメリカを中心とした連合国軍の占領下で民主主義国家として生まれ変わることとなった。それにともない、皇室制度、元号の廃止も議論されたが、皇室制度は存続することとなる。元号は、戦後長らく慣習として使用される期間が続いた。昭和54年に元号法が制定され、「昭和」は法的根拠を持つ公式な元号となった。

私が過ごした、昭和40年代にかけての青春時代。経済発展は高度成長と呼ばれ、世界中から注目されるほどであった。国民の生活は豊かになり、余暇を楽しむ余裕も生まれるようになり、太平の世に庶民文化が開花した江戸時代の元禄年間になぞらえ、「昭和元禄」という言葉が生まれた。

その後、日本はオイルショックを乗り越え、バブル景気へと向かう。そのバブル景気の最中の昭和64年1月7日に昭和天皇が崩御され昭和は終わりを告げる。

皇太子・明仁親王(今上天皇)が即位されたことによる改元。平成のもととなった一文は、どちらも「内外、天地とも平和が達成される」という意味であり、「成」の字が使われるのは初めてのことである。

日本人の歴史、文化、暮らしと切り離せない「元号」

西暦はインターネットの世界で元号よりも処理がしやすく優先して使われることが多くなっている。

そんな今でも、役所に提出する申告書や免許証など公的書類では元号が使われている。

元号は、日本の歴史、文化暮らしに深く根づいたもので、「平成」といつか聞いたときに私達は懐かしさとともに、時代を思い浮かべる日がくることでしょう。

巻頭言

「山域研究会」を立ち上げ安全登山を目指そう

砂川(延)

みなさん、明けましておめでとうございます。

年明けて今年の山ではどんな山行になるのか期待がふくらみます。最近の山行計画はバラエティに富んだ計画が出されており、又月間の山行回数も多くなっています。

山行計画委員会では土曜トレの際に募集を行っているアンケート「山行先投票(提案)用紙」での山行先提案と運営委員のメンバーが提案する山行先を合わせて3ヶ月ごとに日程、リーダーを決めて年間山行計画書を作っています。

会員の皆さんへは会報の行事予定でお知らせをしていますし、直近の山行については、高御位例会の際に山行先ごとの山行申込書で募集を行っています。現在、山行計画の提案が会員の皆さんの要望先をすべて取り入れることは難しいことですが、山行先が提案されてもリーダーの引き受け手がないと計画として成立しませんから、山行先とリーダーがセットでないと計画が実現しません。ある意味リーダーの力量も問われることにもなっています。

今年是一个の提案として、かつて実施していた「山域研究会」(現在は休止状態)を復活させ、山行先ごとに集まり、参加者が対象の山の資料、情報を持ち寄り要望に沿った山行計画を練り上げて、計画の立案を行ってはと考えています。

これは主に遠方の山で、泊山行が主体にはなってきますが、日帰りの山行先、近隣の山行先であっても情報の少ない山を計画していく際は、リーダーとして計画が立案しやすくなるのではないのでしょうか。

現状では、リーダーが提案した山行先へ、この指とまれ式で山行申込みを行っていますが、この案では「山域研究会」に加わったメンバーが主体となり山行計画が立案されることになり、山のグレード、道迷いや、危険個所の把握や対処が事前に分かり、現地の山の状況もメンバーの中で共有でき、安全登山に繋がるのではないのでしょうか。

この1月には、早速、九州の「傾山」で提案していきたいと考えています。

2017年秋、計画し実施段階になっていたのですが、フェリーの欠航から急遽取りやめとなった山でした。まずは「傾山」にこの指止まれで「山域研究会」を立ち上げていく予定です。「傾山」の山行に参加する、しないは別にして皆さんのご参加をお待ちします。

もう一つは「山域研究会」とも関連してくることになるのですが、今年の夏山集中の実施山域です。去年は中央アルプスへ予定していた山行が、直前になり道路の崩壊で急遽変更して南アルプスに集中することになりました。

今年には運営委員会の中で、夏山検討委員会を立ち上げて山域について検討していく予定です。

夏山でどこへ行くかご期待ください。